

# 計画実務のフローと本ガイドラインの関係

都市交通計画の実務のおおまかな流れは、下図のようになります。

この内、本ガイドラインでは、都市・まちづくりと連携し基幹的交通軸を成すバス輸送システムの導入を行う場合を想定し、主に「ビジョン・計画策定」といった計画論の部分にフォーカスし、要点となる考え方や進め方、工夫や留意点を包括的に紹介します。計画は、市町村マスタープランや都市計画、立地適正化計画、都市・地域総合交通戦略、地域公共交通計画等の都市交通に関する計画を対象にしていますが、各個別計画の立案のためのガイドライン・手引きについては、それぞれ国交省から発出していますので、そちらを併せて参照ください。

また、現状の「実態把握」による課題の特定や、バス路線再編時の「複数案の比較・方向性の評価」の考え方、各関係者の役割と合意形成のコツ、計画に盛り込む「施策・事業」の様々なバリエーションの紹介、「マネジメントや効果の評価」の重要性等についても、簡単に触れていきます。

実態調査、データ分析、需要予測や将来シナリオ検討等は内容に含まれていませんので、適宜、都市交通計画に関する既往文献や、「都市交通調査ガイダンス」、ビッグデータ活用やアンケート調査、バスサービスに関する文献、当研究室が別途取り組んでいる「ABP Challenge」、また、先進自治体による検討事例等を参照してください。

＜都市交通計画に関する実務の主要なフローと本ガイドラインの対象＞

